

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 ☎763-5110
会長 黒須一夫
幹事 大口弘和
会報委員長 秋山茂則

No.35

ロータリーを楽しもう!
ENJOY ROTARY!

1989~90年度 RI会長 ヒュー M.アーチャー

第377回例会 平成2年3月20日(火) 晴

◇ “それでこそロータリー”

◇ 出席報告

会員 62名 出席41名
出席率 66.13 %
前回 3月13日 (修正出席率)98.39%

◇ ビジター紹介 4名

◇ お誕生日祝福

竹内君 (3/20)

◇ ニコボックス

大矢 佳正君 西村さん、ご迷惑をおかけしました。

菅原 宣彦君 スピーカーに藤 公之介さんをお迎えして。

竹内 真三君 誕生日祝い。

永井 正義君 結婚記念日祝い。

◇ 大口幹事報告

1. 次回例会終了後、理事役員会を開催いたしますので、理事役員の方はお残りください。

◇ 黒須会長挨拶

“お彼岸(ひがん)考”

お彼岸は暑さ寒さも彼岸までといわれるように、春彼岸は冬の寒さがだんだんと消え行き、農耕の開始、すなわち労働開始時期であります。

秋彼岸は暑さがだんだんなくなって、涼しくなる節目であり、春にまいた五穀がたわわにみのる時期、冬に対する準備の時期でもあります。

お彼岸は平安時代から今日まで連綿として続いてきた佛教行事であります。

お彼岸は古代インドのサンスクリット語では、パーラミタParamitaといい、到彼岸(とうひがん)と訳されます。佛教ではお彼岸とは、迷いに迷っているこの岸の日常的生活から、向う岸の仏様の悟りの世界に行くこと、これを念じて生活することだそうです。この時期に行なう行事が佛教の教えと結びつき、

ついで佛教行事として行われるようになりました。

農耕の行事と仏教の行事が結びついたかは種々の説がありますが、お彼岸に山に登って太陽をおがみ、先祖をおがんで、本年もよい日照りでありますよう、五穀豊饒(ごこくほうじょう)を祈願する地方があります。彼岸というのは日願に通じるといわれ、発音も同じであります。

佛教では御先祖様は西方はるか彼方にある極楽浄土に迎えられて阿彌陀様のところに住むといわれます。

真東から真西に沈む太陽を拝み、浄土が西にあり、亡き人はそこに行くのだという民衆の信仰が合わさり、お彼岸という行事になりました。

春彼岸は人びとがご先祖をしのび、春、夏の生業(なりわい)がうまく行くよう、五穀豊饒を祈り、お願いする祈願であります。

秋彼岸は五穀が実る時期で、感謝のお祈りを先祖にささげる祈願であり、

両方の節目に仏教が深い意味をもっています。

どんなに多忙をきわめ華やかな人生でも、刻々と無常のこゝろによりて人生は過ぎ、若さをほこってもその時期は刻々と過ぎて、皆やがて死ぬわけです。

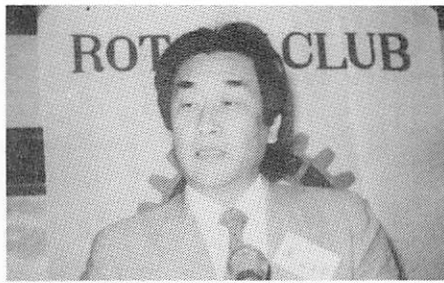
この真実を認めよといったのがブツタであり、そのブツタの仰せをわれわれの心にもつことが彼岸のいなみであります。

多忙の中でも、春、秋の彼岸とお盆の3回はお墓参りをして、ご先祖や自分の人生のことを振り返ってみることも意義あることと思えます。

◇ 講演

“天山の旅”

作家 藤 公之介 氏 (紹介 菅原君)



3年程前に、天山山脈の鉄連邦（未登峰）への登山許可申請を日中友好天山シルクロード学術調査隊として中国政府へ出しておりました。昨年その許可があり、6月17日に日本を出発しました。準備万端整ったとき天安門事件などあり、出発を一週間延ばしました。その頃の北京は厳重な戒厳令下にあり、空港での検閲は大へん厳しく、個々の所持品は小さな箱までいちいち開け中味を調べました。ビデオテープなどは一本一本チェックする仕末。北京を出発する日バスが天安門広場にさしかかったとき、添乗員から「カメラを兵隊などに向けしないで下さい。銃でうたれても責任はもてません」と注意されました。市内のアスファルト道路には、戦車のキャタピラの跡が生々しく残っていました。そんな中を私達は北京を後に天山に向かいました。ウルムチまでバスで4時間そして西の伊寧そこから天山を北から南へ馬と徒歩で横断するといった無謀に近い計画、バスー馬ーバスと乗り継ぐ4500kmの旅です。中国には未開放地区というのがあります。そこは政府の許可を得ないと入れない処です。その一つにチャウスという大草原がございます。見渡す限りの草原、360°見廻しても草以外何も目に入らない処です。その真中にボツと石像が立っております。草原石人と呼んでいるそうですが、高さ2m、二千年前のもので真東を向いております。私はその横に並んで立ち、遙か東を眺め、この大陸の大草原の二千年の時の流れを実感したとき、言葉で尽せない感動を覚えました。いづれこれをドラマにと考えました。チャウスから車で1時間位の処にラマ教の古い寺院がありました。モンゴル人の建てたお寺です。興味がなかったが僧侶が案内するというので見ることにしました。中へ入った時は薄暗くてよく見えませんでした。目が馴れて中の様子がわかって驚きました。周囲の壁一面に夥しい数の曼陀羅が飾ってありました。その一つ一つは稚拙な絵だが、その色彩が素晴らしく圧倒されるような感動でした。この感興を自分達だけのものではなく、皆さんに提供したいと、ライトをつけ夢中でカメラを廻しました。車で2時間、ソ連国境2kmの地点まで行きました。川の向こうにソ連の町が見え

ます。そこではなんと600頭の馬の歓迎を受けました。草原の中で600頭の馬に乗ったキリギス族の大歓迎です。この馬は天馬といわれサラブレッドより素晴らしく、唐の皇帝が欲しがったといわれています。ここで天山越えのための馬32頭を調達しました。いよいよ天山への挑戦です。我々は10日間（正味7日）かけて越えたわけですが、1360年前に三蔵法師が通った処と同じ道を行ったと思います。ムザルト峠を越えたのも同じですが、石が降り、氷河の音がゴロゴロ鳴ったと三蔵が著していることと全く同じ経験をしました。

天山の自然条件の厳しさには筆舌に尽し難いものがあります。馬をアイスホールに落して失うなど難業苦業の7日間でした。お話はこの位にして、後はビデオをご覧ください。なお、この旅を「天山回廊夢幻紀行」というタイトルで東海テレビより流す予定です。

（文責 秋山）

————— 第62回ゴルフ会成績 —————
（中日 C. C. 3/22(木)）

RANK	N A M E	OUT	IN	G	H'cp	NET
優 勝	小坂井盛雄	50	49	99	19	80
準優勝	鈴木 正男	51	48	99	18	81
3 位	永井 正義	43	48	91	7	84
B B	成田 良治	51	57	108	15	93

————— 第39会夫人ゴルフ会成績 —————

RANK	N A M E	OUT	IN	G	H'cp	NET
優 勝	黒須アイ子	55	61	116	30	86
準優勝	成田真砂子	56	58	114	28	86

（参加者 10名）

今週 の 言 葉

自然体 肩を張らず 弛緩せず
木全 昭二

月とともに日のように
谷口 暢宏

◇例会変更のお知らせ

- 豊山ー城北RC 4/3(火)春の家族会の為、
4/1(日)ホテル花水木にて
AM11:00 より
- 名古屋和合RC 4/4(水)F. S. M. の為、八事
山興正寺にてPM6:00より
- 名古屋大須RC 4/5(木)春の家族会の為、
4/8(日)琵琶湖周遊にて
AM8:00より

◇次回例会（3月27日）

- 講演 “第1回 美シリーズ 書”
- 会員 黒野 貞夫 君

◇次々回例会（4月3日）

- 講演 “アメリカ体験”
- 会員 石田 紘 君